

放蕩息子

イエスはまた、こう話された。「ある人に二人の息子がいた。弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私がいまだく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものを手とめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のやうに使ってしまった。何かも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食糧不足にも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。しかし、彼は我に返って言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が、なんと大勢いるのか。それなのに、私はここで飢え死にしようとしている。立って、父のところに行こう。そして、こう言おう。』お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』こうして彼は立ち

上がった、自分の父のもとへ向かった。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。息子は父に言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』ところが父親は、しむべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』こうして彼らは祝宴を始めた。

(ルカの福音書15章11-24節)



放蕩息子—私たちの姿

このたとえ話に出てくる父親を捨てた弟息子は、まことの神様から離れてしまった人間の姿をよく表しています。この父親は神様を造られ、今日も私たちを生かし支えておられる、生けるまことの神様がご存在されます。しかし、多くの人が神など存在しないと考え、神様を認めず、無視して生きています。そしてこの弟息子が父親の財産で遊び暮らしたように、神様から与えられた人生を欲望や快楽を味わうために浪費してしまいます。そして、あなた自身もおそらくそのように生きておられるのではないのでしょうか？ 私たちを愛し今日も支えておられる、生けるまことの神様を無視することはたいへん大きな罪です。

そして、弟息子が遊び暮らしてついにすべての財産を使い果たしてしまったように、私たちも与えられたものを使い果たす時が来ます。いまは人生に何も問題がないと思っても、いずれ誰しもが与えられたものを使い果たし、絶望におちいる時が来ます。若さも力も健康もいずれ必ず使い果たし、絶望と死がその先に待っているのです。誰も死から逃れることはできません。

私たちはこの地獄に行かないように、救いを求めなければなりません。

神様のもとに帰る道

多くの人が迫りくる死に恐怖を感じ、この弟息子がしたようにいろいろなものに助けを求めます。医療をはじめ、人間の考えた偽りの宗教や哲学などに救いを求めますが、弟息子がだれにも助けてもらえなかったように、結局それらのものは本当の救いと希望を与え

そのような私たちのために、すでに素晴らしい救いが用意されています。神様は私たちが滅びることを望まず、救いの道を用意してくださいました。神様は私たち人間を救うために、ご自身のひとり子イエス・キリストを救い主としてこの地上に遣わされました。御子イエス・キリストは今から約2000年ほど前に、カルバリの丘で十字架にかかって死なれました。全く罪のない神の御子が私たちの罪をすべて背負い、私たちの代わりに十字架の上で神様の怒りをすべて受けて、いのちを捨ててくださいました。キリストは私たちを愛し、私たちを永遠の地獄のさばきから救うために自らを犠牲にしてくださいましたのです。

そして、神様はこの御子を三日目に死よりよみがえらせ、真の救い主であられることを示されました。

そして今、神様はいますべての人に悔い改めを求めておられます。あなたを造り、生かしておられる神様を無視してきた自分の罪を認め、神の御子イエス・キリストを救い主として信じるなら、あなたの罪はすべて赦さ



そして、最も大きな問題は、死後にやっけてきます。人間は死んで終わりではなく、神様の御前に立たなければならぬということなのです。聖書は「人間には、一度死ぬること死後にさばきを受けることが定まっている」と警告しています。すべてを知っておられる神様の御前で、一生の間に犯したすべての罪が明らかになれば、その結果、地獄の炎で永遠に焼かれなければならないのです。ですから、私

御子信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまらぬ。

(聖書)

